

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

前続報では、早い場合の可能性として7/21±の可能性を報告致しました。その後の観測から、7/21±が正しい場合に認められる筈の前兆終息が観測されなかったことから、7/13配信の観測情報(E-mail, FAX で日々配信の地震前兆観測情報)では8/7±の可能性が高くなったことを報告致しました。HP続報では報告が遅くなりましたこと、深くお詫び申し上げます。

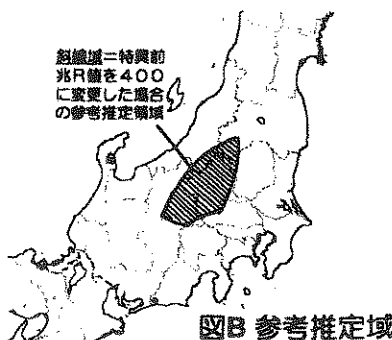
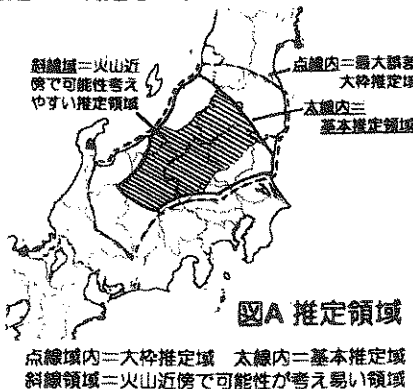
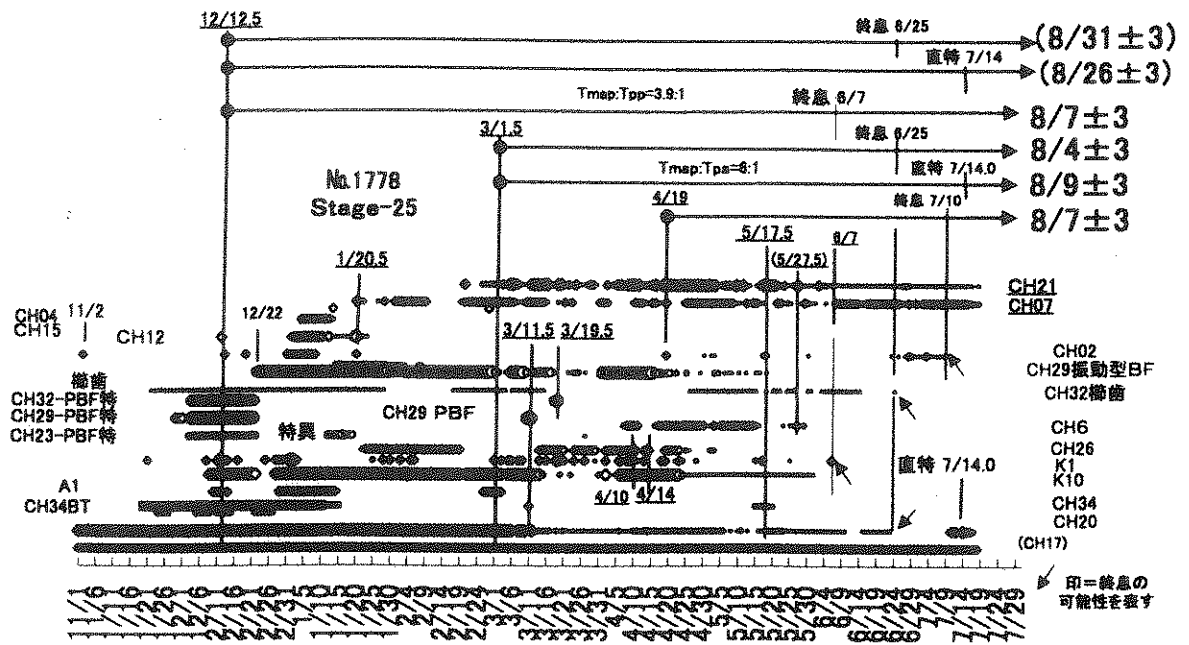
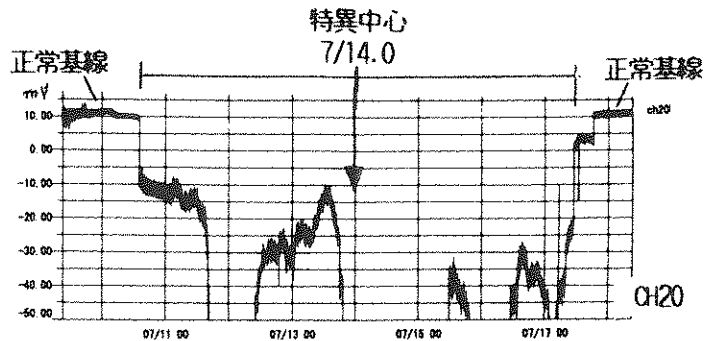
下は本日配信のNo.3112観測情報の一部を転載させて頂きました。静穏だったCH20に顕著な特異前兆が出現したことから、直前特異の可能性認識をしました。今後の観測で来週迄に予想された前兆終息変化が観測された場合は、8/9±2の可能性が推定されます。前兆継続の場合は、08月末時期の可能性も出て参ります。観測を続け続報予定です。

No.1778続報 CH20直前特異 7/14.0 極大⇒ 8/9±発生の可能性有

長期継続前兆No.1778は、7/13配信のNo.3111観測情報でCH20に直前特異が出現した可能性を報告致しました。6/25以降静穏基線だったCH20に突然顕著な特異が出現したため直前特異の可能性を考えました。7/13午後時点では7/12を直前特異中心の可能性で計算し、8/7±発生の可能性としましたが、その後CH20は右波形のとおりの特異が継続し7/17に正常基線に完全復帰致しました。顕著な特異部分の中心は7/14.0ですので、3/1.5 極大に対する直前特異7/14.0 Tmap:Tpa=6:1 (Tpa=直前特異~発生) 経験則を使用しますと、8/9±発生の可能性が計算できます。下のとおり、8/7±等を示す関係も複数見えますので、8/9±2の可能性が示唆されます。

ちなみに7/14直前特異を昨年12/12 極大に対応させますと8/26±が計算されます。8/31±が示唆される関係も見えますので可能性完全否定困難。但し8/28±3とした場合、3/1.5 極大に対する前兆終息は認められません。

CH21の最終極大、CH7の極大が正確に認識できませんが、下の()内が仮に極大の場合は、8/9±2 発生の可能性が仮に正しい場合には、(5/17.5)極大⇒7/20± (5/27.5)極大⇒7/21± (6/25)極大⇒7/29±と云う終息時期が計算できます。いずれかが確認できるか観測を続け続報させて頂きます。



- ◆推定領域: A図点線領域内=大枠推定
太線領域内=基本推定領域
斜線領域内=可能性考え易い
- ◆推定規模: M7.8±0.5
- ◆推定時期: 最も早い可能性= 8/9±2
7/30以降前兆継続の場合は再考
- ◇推定地震種: 日本列島陸域地殻地震
震源浅い地震 火山にやや近い可能性有
- ◇推定発生時刻: 午前9時30分±1時間半
または 午後4時±3時間

※各項目根拠等は続報No.266 資料参照